



えほんのせかい



絵本、というとみなさんは何を思い浮かべるだろうか。きっと小さい頃を思い出さるだろう。絵本は乳幼児や児童向けの、挿絵がたくさん入った本である。しかし私たちの年代が読んでも面白い絵本はたくさんある。今回はタイプの違う2冊の絵本を紹介する。

1つ目は大人向けの絵本、「Little Tern (リトルターン)」。主人公は痩せこけたアジサシ (tern)、しかもコアジサシ (little tern)。よく知られていない、飛ぶことしか特徴のない地味な鳥である。そんな彼が、ある日突然飛べなくなってしまふ。初めは翼や尻尾など、外見が故障したのかと思ったのだがそうではないようだ。そこで、彼は1つの結論を導き出す。「内面が壊れた」のだと。そして彼は仲間達には独創的な言い訳をして離れ、自分だけの旅に出る。

地上での日々の生活の中では、思慮深い星と自分たちの存在理由について話をしたり、時間をかけてゆうれいガニとい



もし、自分が鳥でないのなら、
いったいぼくは何なのだろう？



Little Tern

ブルック・
ニューマン／作
リサ・ダークス／絵
五木寛之／訳
集英社

うカニと友達になったりする。そんなある日、彼はあるものを見つけるのだ。飛んでいる最中は気づかなかった、「影」の存在を。もちろん「影」はずっと存在していたはずだ。しかし、日常飛び続けているリトルターンにとって、「影」は存在していても気づかないものだったの

だ。存在しないように見えても、確かに何かが存在している。そして、彼は飛べないということをありのままに受け止めることができるようになる。そして……。翻訳ならぬ想訳を行った五木寛之は、人生の中で誰しも何度か経験する、挫折、信じがたい悲劇、失ったものをどうやって取り戻すか、どんな風に危機を乗り越えて再起したのかがこの本の主題になっていると言う。水彩画の挿絵も綺麗で心癒される、味のある本である。

2つ目は子供向けの絵本、「ぼちぼちいこか」。関西弁の大きなかばが主人公だ。彼は消防士や船乗り、バレリーナや果ては宇宙飛行士まで、いろんな職業に挑戦するも体が大きいことですべてに失敗してしまう。しかしあきらめず他の職業にもどんどん挑戦していく姿はなんと微笑ましい。そして滑稽に描かれたエブラシによるカラフルなイラスト、ユーモラスな関西弁のテンポは、読者を焦らさずぼちぼちいこかという気分させる。私たちの年代でも楽しむことができる絵本だ。京大生のみなさんは、今まで難しい小説や評論ばかりを読んでき

ぼちぼちいこか



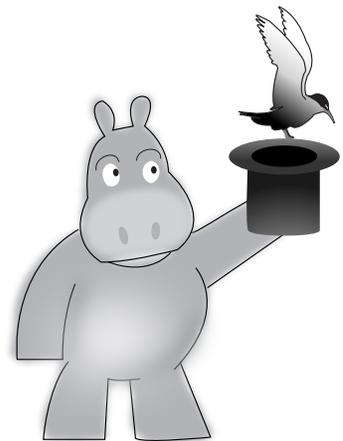
ぼちぼち いこか

マイク・セイラー／作
ロバート・
グロスマン／絵
今江祥智／訳
偕成社

ただ、置き忘れられていたのだ。

たかもしれない。今更絵本なんて、と思うかもしれない。しかし、絵本は挿絵が多く文章が少ないひとつひとつの言葉が大きな意味を持ち、深く考えさせられ、またその人の感性でいろいろ楽しめることができるだろう。ぜひ絵本を手にしてほしい。(天然水)

ええこと おもいつくまで



ここで ちょっと
ひとやすみ。

はみだし
すてーじ

肝腎と肝心、どっちでも正解だけど、薬学部生的に肝腎を使っていきます。腎臓も大事。
⇒私もそう思います！

(薬・4 びか)
(バランスよい食生活を送りたい；編)